様式第十一の特定－第二表及び特定－第三表を次のように改める。

特定－第２表　事業者のエネルギーの使用量及び販売した副生エネルギーの量

エネルギーの種類	単位	年度 使用量 数値	使用量 熱量GJ	販売した副生エネルギーの量 数値	販売した副生エネルギーの量 熱量GJ	購入した未利用熱の量 数値	購入した未利用熱の量 熱量GJ
燃料及び熱 原油（コンデンセートを除く。）	kl						
原油のうちコンデンセート（NGL）	kl						
揮発油	kl						
ナフサ	kl						
灯油	kl						
軽油	kl						
A重油	kl						
B・C重油	kl						
石油アスファルト	t						
石油コークス	t						
石油ガス 液化石油ガス（LPG）	t						
石油系炭化水素ガス	$千m^3$						
液化天然ガス（LNG）	t						
可燃性天然ガス その他可燃性天然ガス	$千m^3$						
石炭 原料炭	t						
一般炭	t						
無煙炭	t						
石炭コークス	t						
コールタール	t						
コークス炉ガス	$千m^3$						
高炉ガス	$千m^3$						
転炉ガス	$千m^3$						
その他の燃料 都市ガス（　）	$千m^3$						
産業用蒸気	GJ						
温水	GJ						
冷水	GJ						
小計	GJ						
電気 事業者 昼間買電	千kWh						
電気需要平準化時間帯 夏期・冬期における夜間買電	千kWh	（　）	（　）				
その他 上記以外の買電	千kWh						
自家発電	千kWh						
小計	千kWh						
合計GJ							
原油換算kl	Ⓢ			Ⓣ		Ⓣ’	
前年度原油換算kl							
対前年度比（%）							

備考　「夏期・冬期における電気需要平準化時間帯」については、昼間買電の内数であるため「（　）」としている。「電気」の「小計」で重複計上しないこと。

特定－第３表　事業者の全体及び事業分類ごとのエネルギーの使用に係る原単位等及び電気需要平準化評価原単位等

1　エネルギーの使用に係る原単位等

番号	事業分類	事業分類ごとのエネルギーの使用に係る原単位等の計算 エネルギーの使用量（原油換算kl） Ⓐ	販売した副生エネルギーの量（原油換算kl） Ⓑ	購入した未利用熱の量（原油換算kl） Ⓑ’	Ⓒ=Ⓐ-Ⓑ-Ⓑ’	Ⓒの構成割合（%） Ⓓ=Ⓒ/Ⓤ×100	生産数量又は建物延床面積その他のエネルギーの使用量と密接な関係をもつ値 Ⓔ	エネルギーの使用に係る原単位 Ⓕ=Ⓒ/Ⓔ	エネルギーの使用に係る前年度の原単位 Ⓖ	エネルギーの使用に係る原単位の対前年度比（%） Ⓗ=Ⓕ/Ⓖ×100	エネルギーの使用に係る原単位の対前年度比の寄与度（%） Ⓘ=Ⓓ×Ⓗ/100
1	工場等に係る事業の名称										①
	細分類番号						（名称：　）（単位：　）				
2	工場等に係る事業の名称										②
	細分類番号						（名称：　）（単位：　）				
3	工場等に係る事業の名称										③
	細分類番号						（名称：　）（単位：　）				
事業者全体		Ⓢ　（合計）	Ⓣ　（合計）	Ⓣ’（合計）	Ⓤ　（合計）	100%	Ⓥ（名称：　）（単位：　）	Ⓦ	Ⓧ	Ⓨ=Ⓦ/Ⓧ×100 Ⓩ=①+②+③+…	

備考　1　エネルギー管理指定工場等及びエネルギー管理指定工場等以外の工場等を事業分類ごとに合計した値をそれぞれ記入する。
2　工場等に係る事業の名称及び細分類番号は、日本標準産業分類とする。事業分類が４分類以上になる場合には、項の追加を行うこと。
3　事業者全体の「エネルギーの使用に係る原単位Ⓦ」の算出が難しい場合は、「エネルギーの使用に係る原単位の対前年度比の寄与度の合計値Ⓩ」を事業者全体のエネルギーの使用に係る原単位の対前年度比としてもよい。その際、ⓋⓌⓍⓎは記入不要。
4　事業者全体の「エネルギーの使用に係る原単位Ⓦ」が算出できる場合は、事業分類ごとのⒶⒷⒷ’Ⓒ及び事業者全体のⓈからⓎまで記入すること。